

第5回 糸魚川市駅北復興まちづくり計画検討委員会（議事録）

日 時	平成 29 年 6 月 28 日（水）13：30～14：30	場所	ヒスイ王国館 2 階ホール
件 名	報告事項 ・ 前回委員会後の取組経過 資料 1 復興まちづくりに関する提言について		
出席者	出席委員 木村英雄委員長 中出文平副委員長 山下建夫副委員長 江口知章委員 岡崎篤行委員 関澤愛委員 磯貝正子委員 倉又孝好委員 倉又康委員 小坂功委員 齋藤伸一委員 斉藤直文委員 杉田康一委員 山岸美隆委員		

会 議 要 旨

1 開会	13：30 開会 司会：事務局長 糸魚川市産業部復興推進課 斉藤課長
2 報告	・ 前回委員会後の取組経過 資料 1
事務局	・ 資料 1 前回委員会後の取組経過について報告します。 6 月 1 3 日、1 4 日に、昼と夜の 2 回に分け被災者・関係者説明会を開催し、支援金、義援金の配分、今後の再建に向けた流れについて、また、6 月 8 日に開催した第 4 回糸魚川市駅北復興まちづくり計画検討委員会で検討を行った提言書（案）について説明を行いました。 6 月 1 5 日には、第 3 回糸魚川復興まちづくり推進協議会を開催し、提言書（案）並びに今後のスケジュールについて説明を行いました。提言書（案）について国、県それぞれの立場からご意見をいただき、本日配布した提言書に反映しています。 6 月 2 0 日には、加賀の井酒造の酒造棟新築工事に関する建築基準法上の公聴会を新潟県主催で開催しました。被災地の都市計画における用途地域が商業地域に指定されており工場を建てるために必要な都市計画の手続きとなります。 6 月 2 2 日には、第 4 回本町通り景観まちづくり勉強会を開催し、不燃化の支援策、雁木の建築に関わる支援策について、市の考え方を示させていただきました。今後は、具体的な支援策や建築のルール等の勉強会を引き続き行っていきます。 6 月 2 5 日には平成 2 9 年度糸魚川市総合防災訓練を実施しました。住民避難訓練は市内 80 地区で実施し、特に地域重点訓練の住宅密集地火災想定訓練として、糸魚川駅の南側、糸魚川小学校の周辺で、飛び火を想定した対応訓練を実施しました。 同日午後から、駅北大火復興事業講演会として前段は、検討委員会の委員である関澤委員より「糸魚川大火があらためて我々に喚起したこと」の基調講演、後段は、「駅北大火から半年、災害に強いまちについて考える」として 4 名のパネリストからパネルディスカッションを行いました。報告は以上です。

<p>3 復興まちづくりに関する提言について</p>	
<p>事務局</p>	<p>・前回6月8日の第4回糸魚川市駅北復興まちづくり計画検討委員会におけるご意見については委員長預かりとさせていただいており、修正を反映した提言書（案）をあらかじめ各委員の方々にお送りし確認をいただいています。</p> <p>委員長より提言書を市長に手渡した後、委員の皆様から復興まちづくりへの期待や感想などお話し願います。</p> <p>～木村委員長、中出副委員長、山下副委員長より市長に提言書が渡される～</p>
<p>米田市長</p>	<p>・今ほど「糸魚川市駅北復興まちづくりに関する提言書」をいただきました。ありがとうございました。</p> <p>3月2日に第1回の検討委員会を開催し、4ヶ月という短い期間の中で提言をまとめていただき心より感謝申し上げます。「糸魚川市駅北復興まちづくりに関する提言書」は、庁内で調整をした後、7月10日より「糸魚川市駅北復興まちづくり計画（案）」としてパブリックコメントを実施します。その後、市民のご意見を織りまぜて8月末までに「糸魚川市駅北復興まちづくり計画」として策定公表します。計画の策定後は、市民、被災者、関係者、観光、経済あらゆる方と一体となり、内容によっては関係者でそれをどのように進めていくか、誰がするのか、誰が支援するのか等、様々なことを「糸魚川市駅北復興まちづくり計画」をもとに立ち上げ、進めていきたいと考えます。</p> <p>「糸魚川市駅北復興まちづくりに関する提言書」を大切にし、これをしっかりと進めていかななくてはならないと考えますし、被災者の方々が「糸魚川市駅北復興まちづくり計画」により復旧、復興していくことが全国からお寄せいただいた支援に対するお礼、お返しになると考えます。委員の皆様方には、引き続きご支援、ご助言をお願いいたします。</p> <p>【復興まちづくりへの期待や感想】</p>
<p>山下副委員長</p>	<p>・委員という大役を承り、当初はどのような検討になるか心配でした。安心・安全、そして住み良い復興型のまちづくりのスタートとなります。観光協会という立場から、賑わいあるまちづくりに向けた提案が必要だと感じていました。提言書には、展望施設や賑わい創出拠点の導入、更には駐車場の整備が盛り込まれ良かったと思っています。本当の形になるのはこれからであり、皆さんの知恵を入れることにより、より良いものとなり、それが、糸魚川の経済、市民のためになると信じています。</p>
<p>山岸委員</p>	<p>・被災者との情報交換が進まず苦勞した面もあったが、全体としてはスピーディに提言書の検討が行われたと思います。商工会議所としても、この間、2度に渡って提言し、この提言書の中に盛り込んでいただいた。これからは本当の意味での出発だと覚悟を決めています。持続可能なまちづくりを進める必要があります、駅北の中心市街地活性化が第一歩目の挑戦と思っています。</p> <p>この地域は、日本海を目前300mに位置する新幹線駅があり、高速ICへも5分という好条件の立地であり、中心市街地活性化に向けて伸びしろがある地域だと認識</p>

	<p>しています。</p> <p>本町通りを延焼遮断帯として、もう一度木造で再建するという取組は全国から注目されることと思う。しかし、規制の準耐火構造ではボテボテ感が出てしまうので、様々な技術を尽くし、準耐火構造に見合うような木材等を開発できれば、燃えにくい木造の街なみを創出することができる。全体は、住みやすい、にぎわいのあるまちづくりですが、大火に対し、私たちが挑戦し、全国の皆様から見て、感心していただけるまちづくりを進めて行っていただきたい。</p> <p>まちづくりにはプランナーとプレーヤーが必要になるが、商工会議所は、今後はプレーヤーとして取り組んでいきたいと思う。</p> <p>・建築士会糸魚川支部では、被災地で循環型のまちづくりを進めることを3月末に糸魚川市に提言した。循環型のまちづくりとは、地域の建築士、大工、工務店等の人的資源や市内の豊富な森林資源を利活用することで、被災地に投資された資金が、市内に循環、再投資され継続的な復興に繋がっていくことです。市内の森林資源の利活用は、行政と連携し、ふるさとの木での家づくりや、提言書にもある地場産材を活用した復興モデル住宅の建設で実現できると思います。</p> <p>一方、住まいを設計する建築士は、施主となるお客様から選ばれなくてはなりません。そのためには、行政の施策に頼るのではなく、自ら災害に強い木造住宅の設計手法を学び、お客様の信頼を得ることが重要と考えます。建築士会糸魚川支部では、7月6日午後1時30分よりビーチホールまがたまにて、糸魚川復興シンポジウムを糸魚川市と共催で開催します。シンポジウムでは火災に強い木造住宅の設計手法を被災者、市民、行政とともに学び考えることを目的としています。是非とも参加していただきたい。</p> <p>糸魚川大火の復興には行政の施策だけではなく、市民、事業者、関係団体が主体となって関わっていくことが大切だと考えています。我々建築士糸魚川支部は建築士としての職能を生かし、住宅相談等の地域貢献活動や日常的な業務を通じて、糸魚川の復興のために、地域や社会に協力、支援をしていきます。</p>
<p>杉田委員</p>	<p>・建築士会糸魚川支部では、被災地で循環型のまちづくりを進めることを3月末に糸魚川市に提言した。循環型のまちづくりとは、地域の建築士、大工、工務店等の人的資源や市内の豊富な森林資源を利活用することで、被災地に投資された資金が、市内に循環、再投資され継続的な復興に繋がっていくことです。市内の森林資源の利活用は、行政と連携し、ふるさとの木での家づくりや、提言書にもある地場産材を活用した復興モデル住宅の建設で実現できると思います。</p> <p>一方、住まいを設計する建築士は、施主となるお客様から選ばれなくてはなりません。そのためには、行政の施策に頼るのではなく、自ら災害に強い木造住宅の設計手法を学び、お客様の信頼を得ることが重要と考えます。建築士会糸魚川支部では、7月6日午後1時30分よりビーチホールまがたまにて、糸魚川復興シンポジウムを糸魚川市と共催で開催します。シンポジウムでは火災に強い木造住宅の設計手法を被災者、市民、行政とともに学び考えることを目的としています。是非とも参加していただきたい。</p> <p>糸魚川大火の復興には行政の施策だけではなく、市民、事業者、関係団体が主体となって関わっていくことが大切だと考えています。我々建築士糸魚川支部は建築士としての職能を生かし、住宅相談等の地域貢献活動や日常的な業務を通じて、糸魚川の復興のために、地域や社会に協力、支援をしていきます。</p>
<p>齊藤 (直) 委員</p>	<p>・消防力強化には、人、施設 (装備)、水利の3要素が重要であり、提言書の中でも取り上げられています。特に人は、常備消防と消防団はこれからも一体性をもって訓練することで組織力、機動力を高めていきたいと考えます。</p> <p>今回の大火で初期消火の重要性をととも感じました。あくまで消防団の役割は後方支援で活動にも限界があることから、エキスパートである消防士の増員をお願いしたい。</p> <p>消防活動を行った教訓として、火の用心が何よりも重要であることを痛感した。市民一人一人が火を出さないようにすることが重要です。市民にその大切さを分かっていたくため、宴席等の「一本閉め」、「三本閉め」にかかわって、今回、「糸魚川火の用心で二本締め」を行うことを提案します。防火意識の向上、気持ちを引き締める上でも重要であり、将来を担う子どもたちにも伝えたいし、一日の始まりや様々な場面で実施してはどうかと思います。今後は、安全・安心を最優先として、災害に強いまちづくりをお願いします。</p>
<p>齋藤 (伸) 委員</p>	<p>・被災4地区の区長を代表して感想を述べます。本提言書はあくまでもたたき台であり、これからの住民を巻き込み本当の意味での復興まちづくりが始まることになると思います。</p> <p>区長会で酒田市に視察に行きました。25日の駅北大火復興事業におけるパネルディスカッションでも述べましたが、酒田市では火災の後、素早い対応で、即、復</p>

興計画を策定し事業を進めたが、その後に住民から様々な意見が出て、計画を変更せざる得ないことになった事を聞きました。糸魚川でも被災から半年が経過し、被災された住民はやっと心に余裕が出てきて、まちづくりについても考えが及ぶようになってきた。将来の生活が見えてきたということから、これからは住民意向を踏まえ、まちづくりを進めることになると思います。

酒田市では被災後40年が経過し、復興した商店街もシャッター通りとなっています。本町通りを雁木通りとし、素晴らしい商店街として復興しても、住民が被災地から誰もいなくなり、広場、公園、商店街だけが素晴らしいのでは何の意味もない。やはり、住民も一緒になって、家を建てこの地に住み続けるというのが区長としての想いです。糸魚川市においても酒田市の例を見て、10年後、20年後を見据えた中でまちづくりを進めていく必要があると考えさせられました。

小坂委員

・糸魚川広域商店街を代表し参加させていただきました。糸魚川広域商店街は、駅の北側5つの商店街が新幹線の開業前から広域を舞台として活動し、活性化を図る目的で組織されました。

今回の大火で本町通りの雁木の半分が焼失しました。商店街ということで、被災された事業者と話しますが、一日でも早く戻りたいと考えている方が多いと感じます。計画は7月のパブリックコメントの後、8月末を目途に公表されるということですが、一日でも早くゴーサインを出していただきたい。

検討委員会に参加して、いろんな事を勉強させていただきました。糸魚川の復興まちづくりは全国の方が見ており、まちづくりの進捗が、糸魚川の実力として評価されると思う。すばらしい街になってもらいたい。

商店街として、夏以降、各種の復興イベントを企画しているので、ご参加、ご協力をいただきたいと思います。

倉又(康)委員

・青年会議所を代表し参加させていただきました。ありがとうございました。

火災の当日、消防団員として活動をしていましたが、駅前公園の芝生の上で正座をし、ただ手を合わせているご高齢の方、不安な顔で火事を見ている子ども、同世代の若者も大勢いました。その中で、この検討委員会に参加して思うことは、ご高齢の方が安心・安全で暮らせる街、子どもたちが笑顔で暮らせる街になってもらいたいと強く思います。我々が子どもの時には駅前、本町通り、被災した地域がにぎわっており、そこで遊んでいました。そのような街に、また我々が戻していかななくてはならないと思うし、子どもたちに伝えていくのも我々の仕事だと思っています。

計画検討委員会はこれで終わると思いますが、青年会議所の一員として青年としてできること、地域に住む一人の親世代、青年としてできることをしっかりと考え行動していきたいと思っています。

磯貝委員

・女性の目線からということで参加させていただきました。ここまで来れたのも、国と県と市の連携が取れたからこそと思います。休みも取らずに必死に取り組んでいただいた市の職員の皆さんには感謝します。ありがとうございました。

復興は、生活ができるようになってからが本当のスタートです。仮店舗で営業している事業所、それを応援している周りの者、そして商店街の復興に期待する子ども達、皆さんの多くの支えでがんばれていると思います。外からの応援として、定住、起業、そこにはUターン、Iターン、Jターンも期待しています。

にぎわいづくりは、市民はもちろん、被災地域周辺の商店や事業所が中心となっていきます。これからはそうした中心になる人達と話し合う機会を設けて行くことも必要と思います。とかく女性は噂話が好きです。あまり噂や報道が先行しないよ

うに、また、振り回されないようにすることも必要と思います。

加賀の井、鶴来家、周辺のトライアングルゾーンを拠点としたにぎわいづくりは、周辺の事業所だけにまかせるのではなく、全体を統括する新体制を上手に生み出すことが計画実現への一歩と確信します。

人が集まらなると自治会も、にぎわいも、つくることができません。また、商売も成り立ちません。チーム糸魚川として気持ちを一つにして協力し合うことが必要です。

また、日本海に一番近い新幹線、国道8号線、国道148号線と誘客を図るには条件が整っています。車社会の現代では、街なかの駐車場は必要と思います。高齢化社会が進み、復興計画が進む中でもシャッターを下ろす店が出てくるかも知れません。そのことを頭の片隅に置き、空き家対策も必要かも知れません。

観光資源として山、海、山の幸、海の幸があり、自然の宝庫です。歴史、文化もたくさんあります。国内外からこの復興を見ている人がたくさんいると思います。ピンチをチャンスに変える絶好の機会ととらえ進めてほしいと思います。

最後に、広場と駐車場があることによって、にぎわいを仕掛けることができます。そして、にぎわいの中心となる本町通り、歴史を次世代につなげていく意味でも、今まであった景観をまもり、また先人の想いと歴史を積み重ねていくことが必要です。計画を推進して行ってほしいと思います。

倉又(孝) 委員

・社会福祉協議会として、大火が発生した翌日12月23日にビーチホールまがたまの中にボランティアセンターを設置しニーズ調査を開始しました。26日には県社協、上越市社協、県災害ボランティアネットワーク、県弁護士会等の代表を交え、市においてボランティアセンターの運営について協議をし、27日からは拠点を市民会館ロビーに移し、「糸魚川市地域たすけあいボランティアセンター」として活動を行いました。ボランティアセンターの活動として、ニーズ調査では、保健師と共同で訪問し聞き取り調査を行い、また、弁護士会と共同チラシを作成し掲示、配布を行いました。現地でのボランティア活動では「思い出の品さがし」、「貴重品の取り出し」を行いました。厳しい寒さの中、献身的に活動されたボランティアに多くの感謝が寄せられました。その後、市民会館の都合により、1月21日に活動拠点を再びビーチホールまがたまに移し2月24日まで活動を継続しました。活動されたボランティアは817名、運営スタッフが557名であり、たくさんの皆さんから協力いただきました。

問題点として、2ヶ月足らずの間にボランティアセンターが2度移動したことでセンター運営に支障をきたしました。ボランティアの集合場所についてはトラブルが生じないよう十分な周知をはかり、また、軌道に乗っていたボランティアセンターの撤収そして開設、資機材の移動において多くの手間と労力、費用が必要となりました。

提言する防災とにぎわいの拠点施設の中に、子育て相談窓口機能を備えた災害ボランティアセンターと支援物資の受け入れ、引渡し機能をもった施設整備をお願いします。災害時にはボランティアセンターとなり、平常時には子どもの遊び場や子育て相談窓口として提供することで地域の活性化にもつながります。子どもの遊び場には、子ども用の図書や絵本が読めたり、弁当が食べられるようなコーナーがあると良いと思います。

社会福祉協議会として、提言書の暮らしを支えるまちづくりプロジェクトにある生活支援相談員を4月1日より2名体制で設置し、被災者に寄り添った相談事業を進めています。

にぎわいのある街を想像する時に、どんなに立派な計画であっても、若者、他地

<p>江口委員</p>	<p>域からのよそ者を受け入れるような体制が無ければならないと思います。</p> <p>・2点お話しします。1点目として行政の方々をお願いと確認です。提言内容は広く目配りされていると思いますが、短期間で作られた計画であり詰めきれてない面もあると思いますので、被災者の声に寄り添いながら、提言書2ページ、34ページに記載されている通り進めていただきたい。柔軟に、場合によっては見直すこともありえると思います。</p> <p>2点目として、にぎわいについては、民間事業者の創意工夫が欠かせません。それには、民間事業者同士の連携と行政を含めた連携が必要です。チーム糸魚川として一体となって行動していただきたい。地域のにぎわいを取り戻すということは非常に難しく、チャレンジの面が強い。核となる集客施設も必要だが、個々の店の魅力も必要であり、さらにエリアの総合力が必要です。短期間でにぎわいが戻ることは難しく、粘り強く行動を続けてほしい。</p> <p>にぎわいを取り戻すことは難しいですが、無理ではありません。県内を見ると人口の少ない地域でありながら繁盛している個人の商店がいくつかあります。共通することとして、オリジナリティー、わくわくさせるしかけ、情報発信がある。市外、県外からも集客できている店があり、ある店では、新幹線に乗って新潟駅まで来て、レンタカーを借り1時間以上かけて店まで来るお客さんのために、店まで迷わないように、周辺の観光案内を入れたマップを独自で作成している店もあります。糸魚川には新幹線もあり、チーム糸魚川としてまとまって取り組めばにぎわいの再生もできると思います。また、そうした活動を応援させていただきたいと思います</p>
<p>岡崎委員</p>	<p>・新潟県内のまちなみを調査していますが、糸魚川は県内でも有数のすばらしいまちなみを有していると思います。今回、被災しましたが、提言の中でいろんな事業を導入するとしていますので、これを機会にさらに磨きをかけて、全国にアピールできるような復興を期待します。</p> <p>新潟県内には市民団体のまちなみネットワークが約50団体あり、糸魚川も加盟しています。まちなみネットワークでも応援させていただければと思います。</p>
<p>関澤委員</p>	<p>・火災防災の立場から参加させていただきました。検討委員会では消防水利として大型の防火水槽の整備、海水を利用した取水配管システムの設置、本町通りにおける延焼遮断帯の形成について提言させていただいた。木材を生かすことには賛成であり、本町通りにおける雁木の再生については、木材を生かしながら不燃の効果がある方法もあることを説明させていただきました。また、防災とにぎわいの拠点には、未来を担う若い人たち、子どもたちに教訓を継承する防災教育の場になるよう提言させてもらい、計画に反映いただいたことに感謝します。</p> <p>強調したいことは、計画にある様々な施設は、数年たてば徐々に整備されていきますが、中身を実現する一番大きな要素は地域住民であるということです。防災の面での言うと、消防まかせ、行政まかせではなく、地域住民が立ち上り、自主防災に参加し、出火防止と初期消火を担う。地域ぐるみの防災の体制づくりが大事であり、それが、防災とにぎわいの拠点の中に継承されていけば良いと思います。</p> <p>糸魚川市の復興まちづくりが3年、5年という時の流れの中で見事に花を咲かせることを期待すると同時に、私自身も今後とも糸魚川市の防災まちづくりを応援しながら、見守っていきたいと思います。</p>
<p>中出副委員長</p>	<p>・糸魚川市とは都市計画審議会等でお付き合いさせていただいており、今回、都市計画という立場で参加させていただきました。</p>

	<p>都市計画というのは空間を相手にして、それが時間軸となり、実行するのは人間です。時間について、この提言書は5年間で目途になっており短期の計画です。しかし実際にまちづくりをするとすると、10年間の中期、20年間の長期、場合によれば50年間の超長期ということを含め、何を考えていくかということが必要であり、20年後、50年後の糸魚川が良いものであるということを考え、目先の利益だけに走らず、まちづくりを進めていくことが必要です。</p> <p>また、今回の提言書では被災地域4ヘクタールだけではなく、その周辺を含めた17ヘクタールを対象地域にしており、被災した地域の復興をテコに糸魚川市の中心市街地をより良いものにといいことであり、被災地域が短期であるなら、17ヘクタールの計画対象地域は民間や住民の方、いろんな方が関わりながら中長期にまちづくりを進めていくものです。</p> <p>最後に、人間については、行政、住民、事業者といった担い手に、検討委員会委員でもある観光協会や商工会、青年会議所等の団体やNPO等の多様な組織が、応援団として、また、実行する人として関わっていただけるようにしてほしいと思います。</p>
木村委員長	<p>・今回、委員長を仰せつかりました。まずは、限られた時間の中でここまで提言書をまとめていただき、委員の皆様へ感謝申し上げます。提言書を作るにあたって被災者の皆様、関係団体の皆様、事務局の皆様にお礼を申し上げます。本日、市長に提言書を提出しました。これからが本当の復興まちづくりとなります。まだこれは単なる計画書です。ぜひ魂を入れて、皆で話し合いながら、必要に応じてバージョンアップしながら復興まちづくりに取り組めればと考えています。</p>
米田市長	<p>・提言をまとめていただいた各委員の発言として、重く承りました。本日いただきました提言書、これからできる復興まちづくり計画は、今後、進みながら、まとめあげていく必要があります。</p> <p>まちづくりは人間が行うものであり、住民、行政、事業者が一体となって進めるものです。個々ではなく全ての人々が連携し、リーダー、サポーターといった役割を詰めていく必要があります。是非、この検討委員会を通じて皆様方のお力添えを賜りながら進めていきたいと思っております。限られた時間でまとめていただきありがとうございました。</p>
事務局	<p>・各委員の皆様、ありがとうございました。</p> <p>提言書については庁内で調整した後、「糸魚川市駅北復興まちづくり計画（案）」として7月10日よりパブリックコメントを実施し、8月中の公表を予定します。駅北復興まちづくり検討委員会を閉じさせていただくにあたり、斉藤団長より提案のあった「糸魚川火の用心で二本締め」で締めさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">－糸魚川火の用心で二本締め－</p> <p style="text-align: center;">14時30分終了</p>